

複式授業解消に逆行するのではないかと懸念もされるが、複式授業の通年性に対して、2学年合併授業は、適正集団による、ある教科の1部授業ということである。また学習は個人に成立するという前提から教師のチーム・ワークにより自己調整の学習をさせようとする試みである。

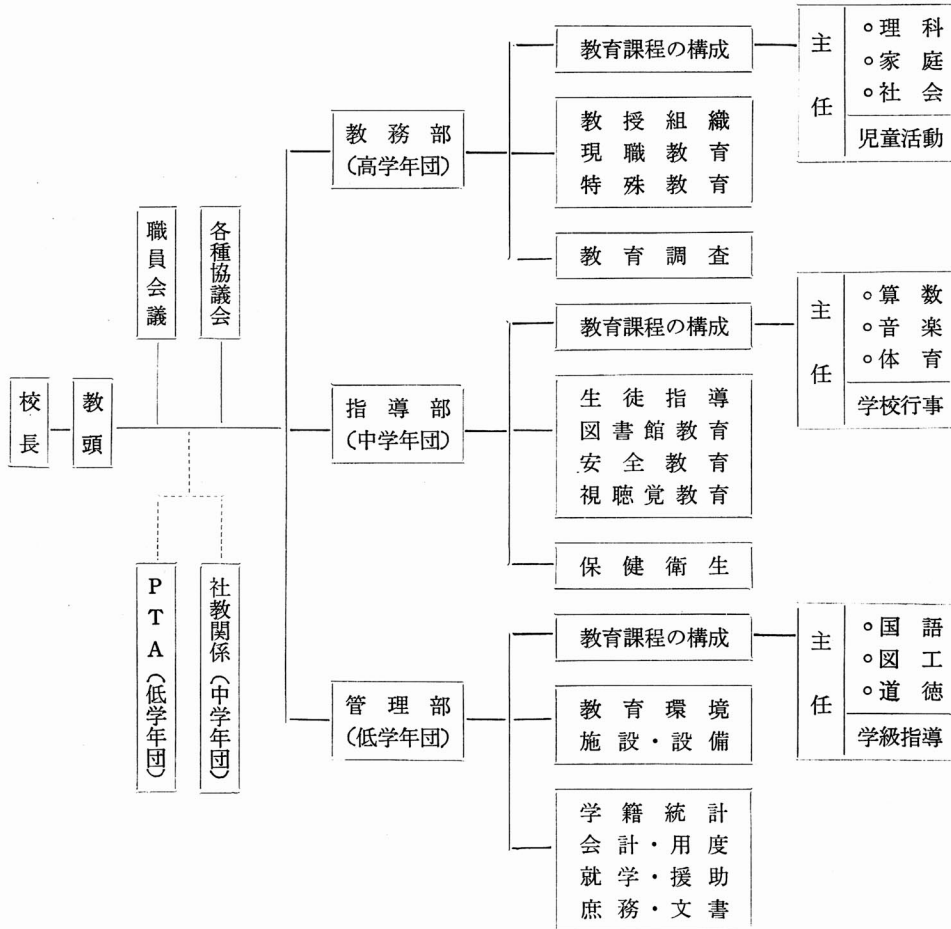
(1) 具体的な研究のねらい

- ① 学年のわくをはずした集団の再編成による教授過程のあり方

- ② 教授過程における教師の役割分担とその活動のあり方
- (2) 学年団構成と実施教科
 - ① 低・中・高学年団とする。
 - ② 体育、音楽、図工とする。

5. 学校経営組織

学校経営の機能化のため、教授内容、事務内容、運営内容を学年団で分担し、相互協力体制で実践する。



6. 実験検証授業

中学年団 音楽科合併授業

授業者 渡辺綾子 (TC) 尾形光男 (TD)

(1) 研究のねらい

音楽学習においては、歌や楽器の演奏技能を育てるとともに、音楽性を高める創造的学習でなければならない。そのため器楽領域においては、音色、ハーモニーの美しさ、リズムの変化、楽器の組み合わせのおもしろさとおして感受性を養うとともに、楽器をおして自主的・創造的な学習を進めるようにしたい。本

校のように小規模小人数学級校においては、音楽の種類や演奏形態に制約を受け、音楽的感覚、表現場面の構成に困難性がみられるので、学年合併による集団構成をとり入れることにより、本質的な授業ができると考えられる。

研究のねらいを具体的にあげると次のようになる。

- ① 学年のわくをはずした再編成集団による教授過程を確かめる。
- ② 教授過程における教師の役割分担とその活動を確かめる。